

浦谷町

農業委員会だより

JAみどりの祭2014inわくや



会場ではスタンプラリーも実施され、盛況を博した



個別の相談だけでなく、懇談・意見交換の場に

地場産品を扱ったブースが多数出店。長蛇の列も

平成26年10月25日、広く町民の方々に農業委員会の活動を知っていただくこと、JAみどりの祭2014inわくやの会場の一面に初めて農業委員会コーナーを設置した。パネル展示、農業者年金・全国農業新聞の案内のほか、特設農業相談コーナーを開設し、来場された方のご相談に担当委員が対応した。農業委員会では今後も「開かれた農業委員会」を目指して、啓蒙活動を推進していく。

主な内容

JAみどりの祭2014inわくや……1
 会長あいさつ/
 活動レポート～被災地支援活動～……2
 認定農業者・新規就農者ガンバってます！/
 農業者年金のご案内……3

くがね産直の会/全国農業新聞のご案内/
 こんなときは農業委員会へ！……4・5
 PIKAPIKAMAMAくらぶ……6
 農地中間管理機構のご案内……7
 わくや発食の町民まつり/編集後記……8

会長あいさつ



浦谷町農業委員会
会長
畑岡 茂

日々の農家の知恵と汗なくしてはありえません。

来年度には統合となる浦谷町立箕岳中学校ではふるさと教育の一環として

「箕岳白山豊年踊り」が継承されていることは、皆さまご存知のとおりです。

統合後も町の宝として続けられるよう多くの声があります。農業委員会としても

農業への啓蒙、将来の農業の担い手育成の観点からも大いに望まれるところです。

指導に当たられている方々の献身的な活動には畏敬の念を禁じえません。

世界の農家の85%が2ha未満です。また、たとえば中国では2億5千万戸の農家が世界の10%の農地で世界食糧の20%を生産しており、8億人以上の飢餓人口の推計のなかでその生産性の高さが注目されています。

工業分野を見ても、世界的

おいしさを求める食生活は

平成26年3月、農地中間管理機構がスタートし、8月には農地の貸借希望者の募集が始まりました。これまでも農業委員会は「効率的な経営」の実現のために規模拡大・農地集積の任務を遂行してきましたが、今年度より新たな形で事業が進められています。今年度もう一つ注目されたのが、2014年が国連の定めた「国際家族農業年」ということです。2014国際家族農業年のレポートでは、農村の地域生活圏の維持・文化の継承などに家族農業が大いに寄与しているとあります。農業のもつ教育的価値、そして何より

活動レポート

東日本大震災被災地支援活動

齋藤 栄子 委員

11月28日、東松島市・大曲保育所と石巻市・井内保育所へ花苗植栽のボランティアに初めて参加させていただきました。県内の女性農業委員組織であるみやぎアグリレディス21が被災地支援活動の一環として、平成24年から続けている活動です。「支援活動」と銘打つ

に展開している大企業はありますが、多くの中小企業がそれを下支えしているのが現状であります。これからの日本の農業を展望するとき、相反する主張や現象の前に簡単に結論は出ませんが、農業委員会はこれからもさまざまな課題に委員・職員一丸となって取り組んでまいります。

町民の皆さまの健やかな新年を祈念し、あいさつといたします。

しておりますが、たくさん子どもたちとのふれあいに新鮮な驚きと倅せをいただいたのは私たち農業委員の方でした。



▲3年目の活動となり、子どもたちも手慣れた様子

私の住む太田区でも少子化・過疎化は進んでおり、以前と比べて子どもたちの姿を見かけることも大変少なくなりました。地域の方々からも「担い手がいない」との心配の声が多数寄せられています。もちろん大曲保育所と井内保育所の子どもたちが将来、地域農業の担い手となる子どもばかりとは限りませんが、土に親しみ、笑顔を見せる子どもたちを非常に頼もしく感じました。

この被災地支援活動は今年度で終了し、来年度以降は各地の保育所の要請に応じて、植栽や食育講話といった活動を行うべく予定です。地域の活性化のためにも、農業や食の大切さを子どもたちにも伝えていくことに担い手の育成に取り組んで参ります。

**認定農業者
新規就農者**

がんばっています！



10区
鈴木 克彦 さん

Q 農業を始められたきっかけを教えてください。

A 実家は専業農家ではありませんでしたが、以前から農業に興味があり、県の認定就農者となって、同級生である1区の佐藤 崇さんのもとで約一年間小ねぎ栽培の研修を受けました。今年の3月に研修が終わり、今は約960坪のパイプハウスを営営しています。

Q 農業の厳しさはどんなところですか。

A 天候に左右されることです。予定よりも2週間前倒しで収穫しなければいけなくなったときは、頭にライトをつけて夜通し作業しなければいけませんでした。

Q 農業で困ったことが起きたときはどのように解決していますか。



▲パイプハウスのビニール張り。佐藤さんをはじめとした仲間が助っ人に

A 研修先でお世話になった佐藤さんやJAみどりの仙台小ねぎ部会の先輩方に相談しています。農業でやりがいを感じるのとはどんなときですか。

Q やはり、いい小ねぎを収穫できたときが一番やりがいを感

A ます。将来の目標を聞かせてください。

Q 今は農地とハウスを借りて栽培していますが、いずれは自分の農地を持って、小ねぎをつくっていききたいと思っています。

農業者年金

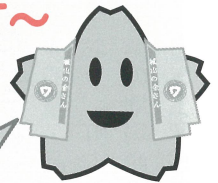
～農家の方にたくさんの
メリットがあります～

国民年金第1号
被保険者
国民年金保険料納付免除者を除く。

年間60日以上
農業に従事

60歳未満

の方は誰でも
加入できます！



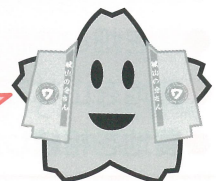
農業者年金額の試算は次のとおりです！

認定農業者・青色申告者などの要件を満たす方

加入年齢	納付期間	性別	通常加入の場合		政策支援を受けて加入の場合	
			保険料負担額	農業者年金額(年額)	保険料負担額	農業者年金額(年額)
20歳	40年	男性	960万円	73万円	744万円	75万円
		女性		63万円		63万円
30歳	30年	男性	720万円	50万円	588万円	51万円
		女性		43万円		43万円
40歳	20年	男性	480万円	31万円	※保険料月額20,000円 運用利回り2.00% 予定利率 1.05% の場合の試算(概算)です。	
		女性		26万円		
50歳	10年	男性	240万円	14万円		
		女性		12万円		

お一人お一人に合わせた、より詳細な試算を作成いたします。
お気軽にお問い合わせください！

涌谷町農業委員会事務局 ☎ 0229-43-2120 / FAX 0229-43-6911



地産地消 産直から町の農業を元気に

くがね産直の会

会長 霜野 ヒロヨ さん



▲直売所の棚には色鮮やかな旬の野菜が並んでいる

「年齢・学歴不問、退職なし。産直は日本一の職場」産直売所わくわくや産直センター黄金の郷を運営するくがね産直の会会長の霜野さんのことばである。わくや天平の湯に併設された産直では、町内で生産された米・野菜・果物・手づくりの加工品・手芸品などを販売している。

きっかけは15年前、JAみどりの女性部涌谷支部の役員会で打診を受けた。当時は周辺地域に直売所はなく先駆的な試みであり、1日の来客が千人に上ることもあったという。初めから直売に適した施設があったわけではなく、屋外での販売から始まり、わくや天平の湯に掛け合い、温泉施設の廊下に机を並べて営業していた時期もあった。

また、地産地消の考えから6年前には町内小中学校の給食への農産物の供給を始めた。給食用の野菜には、洗浄や皮むきの効率化のために小ぶりのものよりも大きいものが望まれる。収穫や選別により気を配らなければならぬが、子どもたちに新鮮な野菜を届けていきたいと霜野さんは語った。供給する量・品目は年々拡大しており、町内の給食における野菜の地場産品使用割合が42・0%（平成25年度）

大型のスーパーとは異なり、産直では少量多品目の農産物を扱っており、新しい作物も積極的に販売している。そのため、珍しい野菜にはオリジナルのレシピを付けるなど細やかな心配りをしている。ときには直売所を飛び出し、県庁での地場産品即売会や東北の「へそ」観光まつりなどのイベントで涌谷町の味覚を各地へ発信している。

こんなときは農業委員会へ!

- 農地を耕作するために売買（貸借）したい。
- 自分の農地に自宅等を建てたい。
- 自分の農地に農業用の倉庫等を建てたい。
- 他人の農地に自宅等を建てるため、売買（貸借）したい。
- 農地の貸借を解約したい。
- 田を畑として利用するために盛土したい。
- 農地を山林等に地目変更したい。
- 農地を相続した。他市町村の農地を取得した。
- 耕作証明書を取得したい。
- 認定農業者になりたい。



まで達するのに大きく貢献されている。昨年の11月からはさくらんぼこども園の給食にも供給を行っている。同園の収穫感謝祭に招待された際には、子どもたちに「おいしい野菜を食べて立派なからだをつくってほしい」という想いを伝えた。子どもたちにとっては生産者と直接ふれあう貴重な食育の機会に、産直にとつては生産意欲を高める機会となった。霜野さんは今後の大きな課題として、



▶東北の「へそ」観光まつりの様子
涌谷町の地場産品は大盛況を博した

若い生産者の育成と加工室の整備を挙げた。会員43名の平均は約60歳。地元の若者たちには「産直はがんばれば米以上の利益が出せる」と、新規就農や米づくりから野菜づくりへの転換について説明している。

現在の施設には加工室がないために、その場で調理したおにぎりや豚汁などを振る舞うことができない。6次産業化や温泉施設内でのイベントの企画に意欲があっても、設備の不足が障害となっている。費用や場所の問題が重くのしかかっているが、実現に向けて検討を重ねている。

この他、バイパス沿いへの移転や商店街の空き店舗を利用した第2号店の構想などもあるが、費用やマンパワーの確保が難しい。これらの課題を解決し、町の農業を元気にするために町ぐるみ地域ぐるみで地産地消を進めていくことが必要だと語られた。



▲馴染みの野菜はもちろん、ここだけの加工品・薬草なども

わくや産直センター「黄金の郷」

営業時間 9:30~18:00

くがね産直の会では
会員を募集しております！

興味のある方は
☎0229-43-6363まで
ご連絡ください。

全国農業新聞

“農家のための情報紙”です！

農業政策やさまざまな仕組みについてわかりやすく解説しています。また、東北版・みやぎ版では地域の担い手や独自の取り組みなどを紹介しています。

●毎週金曜日発行 ●購読料：月額600円（税込み）

購読をご希望の方、見本紙をご希望の方は涌谷町農業委員会事務局へお申込みください。

全国に農産物をPRすることができます！

平成27年4月から全国農業新聞（全国農業会議所）のホームページにおいて、全国農業新聞の購読者の方は無料で農産物販売のPR情報を掲載することができますようになります。

新米が輝くわくやの食育

PIKA P I K A ママくらぶ

齋藤 祐子さん
坂本 賀奈子さん



新米を食べくらべる齋藤さん親子(上)と坂本さん親子(下)



10月1日、涌谷地域米づくり委員会が主催する新米試食会が開かれた。今年「次世代の消費者にお米のおいしさを再認識してもらいたい」として、J A みどりの女性部の子育て応援組織「P I K A P I K A ママくらぶ」を招待した。

企画の目玉は、今年収穫した町内産のひとめぼれ・ササニシキ・まなむすめ・つや姫の利き米。出席した方からは、「子どもが小さいのでゆっくり食べられなかったが、お米の食べくらべは貴重な体験だった」との感想が寄せられた。

昭和30年代以降、米や野菜の消費が減る一方で畜産物や油脂が多く摂られるようになり、食育の推進が叫ばれている。今回はP I K A P I K A ママくらぶのお母さんたちの食に関する取り組みに注目した。

P I K A P I K A ママくらぶではお母さん同士のつながりを築くことを目的に月に1回の頻度で活動している。保育士の資格を有する方が子どもたちの保育を行っている間に、料理・パッチワーク・ハイキング・石鹸づくりなどの講習を実施している。

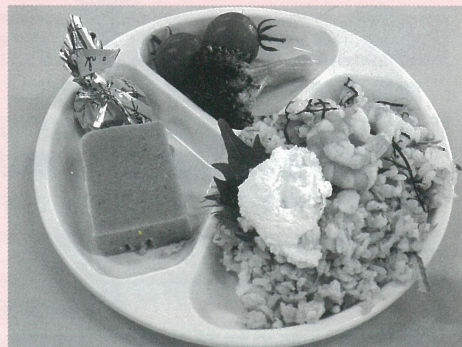
11月17日の取材当日は、乳和食の講習を行っていた。手づくりのカッテージチーズを乗せたちらし寿司は、食材をあますことなく摂れるよう酢の代わりにチーズをつくる際にできるホエー(乳清)が使われている。また、米粉を料理に積極的に取り入れており、この日は米粉のくるみ豆腐が並んだ。お母さんたちが主体となって企画し、米・野菜・肉・牛乳などはなるべく地元産のものを使用するようにしている。坂本さんは「子どもに野菜をおいしく食べさせるための参考になる」と話された。



▲楽しく遊んだあとのおいしい食事に舌鼓。「おいしい!」と歓声が上がる。

乳和食とは?

和食にミルクを活用することで、塩分過多・カルシウム不足・料理に手間がかかるといった和食のデメリットを解消し、手軽に美味しく、バランスよく減塩ができる新しい和食のスタイル。



姿も見られた。

子どもたちの遊び場と講習の場が広い一室に設けられているため、子どもたちは自然とお母さんたちの活動に興味を持ち、進んでしゃもじでご飯と具材を混ぜる手伝いをする子どもたちの姿も見られた。

食育に関心があっても毎日の生活のなかで取り込むのは負担が大きい。こうした親子で地元の味を楽しんだり、食について考えたりする機会は家庭での食育の足がかりとなっている。

P I K A P I K A ママくらぶは5年前に親子5組ほどで始まったが、主に口コミで広まり、今では14人のお母さんで活動している。スタッフをされている齋藤さんは「季節の折々にイベントを企画して、チラシも配っているの、たくさんの方に参加してほしい」と語る。

農地の貸し借りの新しい仕組み! 農地中間管理事業を活用しましょう



農地を貸したい人(出し手)

機構へ貸付け

市町村、農業委員会
又はJA等へ相談

農地中間管理機構

- ① 農地を借受け
- ② 必要な場合は、簡易な条件整備等を実施
- ③ 担い手への農地集積に配慮し貸付け

機構から借受け

農用地利用配分計画案
(市町村作成)

農地を借りたい人(受け手)

機構への農地の出し手等に対する支援(機構集積協力金)

地域に対する支援 「地域集積協力金」

- ① 交付対象者
市町村内の「地域」(注1)
- ② 交付要件
「地域」内の農地の一定割合以上が機構に貸し付けられていること
- ③ 交付単価
2割超5割以下
2.0万円/10a
5割超8割以下
2.8万円/10a
8割超
3.6万円/10a
※上記はH27年度までの特別単価(=基本単価の2倍)
H28・29年度は基本単価の1.5倍
H30年度は基本単価
※津波被災市町村は上記金額に4千円上乘せ

経営転換・リタイアする場合の支援 「経営転換協力金」

- ① 交付対象者
「経営転換する農業者」
※例：田はすべて機構に貸し付けて稲作をやめて、畑は自作する
「リタイアする農業者」
「農地の相続人」
- ② 交付要件
● 全農地を10年以上機構に貸し付け、かつ、
● 当該農地が機構から受け手に貸し付けられること(集落営農と特定農作業受委託契約を10年以上締結した場合も対象)
- ③ 交付単価
0.5ha以下
30万円/戸
0.5ha超2ha以下
50万円/戸
2ha超
70万円/戸

集積・集約に協力する場合の支援 「耕作者集積協力金」

- ① 交付対象者
機構の借受農地等に隣接する農地を、
● 「自ら耕作する農地を機構に貸し付けた所有者」
● 「所有者が農地を機構に貸し付けた場合の当該農地の耕作者」
- ② 交付要件
交付対象農地を10年以上機構に貸し付け、かつ、当該農地が機構から受け手に貸し付けられること
- ③ 交付単価
2万円/10a
※上記はH27年度までの特別単価(=基本単価の4倍)
H28・29年度は基本単価の2倍
H30年度は基本単価

注1：「地域」とは、同一市町村内で、全域が同一の人・農地プランのエリアに含まれている農業集落、大学、学区など外縁が明確な区域。

農業委員会だより 編集後記

選挙一色となった今年の師走。日本の根幹はやはり、農・林・漁業であり、豊かな国土と安全安心な食糧が人の生活を支え、命を育むものです。国政を担う方々にも農業に対して真摯に向き合っていただきたいと思えます。今回の農業委員会だよりでは、そうした思いから「農と食」というテーマのもと、若い力、そして女性の力を紹介いたしました。

また、私事ではございますが、選暦を過ぎると体に変化が起きるようです。夏に体調を崩し初めて1ヶ月ほど入院いたしました。不安を拭ってくれたのは毎日病室に通ってくれた家族の存在でした。どうぞ皆さまも大晦日・正月でご家族との絆をますます深められますようお祈り申し上げます。(日野 善勝 編集委員長)

編集委員

委員長 日野 善勝
副委員長 高橋 均
委員 及川 ふじ子
委員 佐々木 みさ子
委員 齋藤 栄子
委員 渋谷 ミホ



広報編集委員会の様子

涌谷町農業委員会だより 第9号

平成27年1月1日

編集：涌谷町農業委員会

〒987-0121

涌谷町涌谷字新見龍寺前1番地

J Aみどりの営農センター内

TEL：0229-43-2120

FAX：0229-43-6911

お知らせ

手ぶらでも
満喫!

涌谷の味覚の祭典 第7回わくや発 食の町民まつり

日時：平成27年2月7日(土)
11:00~13:30 (10:30受付開始)

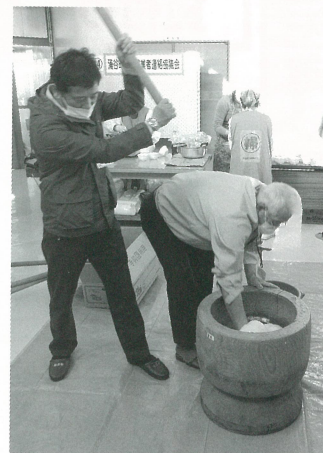
場所：わくや天平の湯

今年度も「わくや発食の町民まつり」が開催される予定である。年々規模を拡大し、前回の来場者数は約1000人に上った。生産者と消費者がお互いの顔を見て、相互理解を深めることで地産地消・食育の意識高揚と機運醸成を目的としている。

祭では約20団体が各ブースで町内産の地場産品をつかった料理を無料で振る舞う。昨年は「小ねぎたっぷり大根餅」、「ほうれん草の中華風炒め」、「小ねぎのはっと汁」、「和牛の焼肉」、「菓膳クッキー」などが並び、来場者の投票による料理の人気コンテストも実施された。

その他小里幼稚園と笹岳幼稚園の子どもたちによる「早ね早おき朝ごはん体操」をはじめとして、パネル展示や適量バランスの弁当紹介など食育に関するブースが数多く設けられた。

今回は農業委員会でも農業振興の一環として参加を検討している。涌谷町冬季最大のイベントにぜひ足をお運びいただきたい。



▲認定農業者連絡協議会主催の餅つき



▲駐仙台大韓民国総領事館からも参加
お互いの郷土料理を味わう



▲大抽選会では新鮮な農産物・加工品をお持ち帰り